

平成27年度 活動報告書

Annual Report 2015.4~2016.3



Contents

事業報告	P1~9
決算報告	P10~24
事業計画	P25~28
予算	P29~30
役員・理事リスト	P31~32
変遷・組織図	P33



Accountability
Self-Check 2012



TERRA PEOPLE ASSOCIATION

認定NPO法人 地球市民の会

平成27年度 地球市民の会の活動の総括

平成27年度も皆さまのご支援により、
地域の方々にご協力をいただきながら活動することができました

● 中山間地域づくりの空き家対策事業を住民の方々と連携して活動を行いました

佐賀市富士町を中心に空き家対策事業を地域の方、行政と連携して実施してきました。少子高齢化が進む佐賀市富士町は34%の高齢化率になり、空き家の増加によりメイン通りもシャッター通りが続いていました。そこで、危機感を抱いた自治会長とともに地域の方や仕事で関わっている方々で空き家対策チームを結成して活動を行っていきましました。まずは、行政と連携して空き家調査を行い、空き家の現状を知ることから始めました、同時に情報を一本化したり、イベントなどを通してまずは古湯に来てもらえる仕掛けづくりを行いました。その結果、1年間で10件の方が古湯に移住することになりました。
この活動を継続的に続けていくためにも地域の方々の参画がさらに必要と感じます。

● ミャンマー事業は、これまでの農業を中心とした地域開発事業を継続し、さらにそれらの事業をソーシャルビジネスへと展開できるよう取り組みました。

循環型農業を中心とした地域開発事業は順調に実施されています。また、今後中心になっていく現地スタッフと話し合いながら徐々に事業運営の現地化を進めています。すぐにできるものではないので、ゆっくり時間をかけてやっていきたいと思います。ソーシャルビジネスに関しては、循環型農産物の販売(アンテナショップ・greenhill)搾油事業を始めた他、地の利を活かしてミャンマーに住む日本人の小学生と保護者対象の農業・畜産体験も開始しました。

● 奨学金の拡充と奨学金制度の見直しを行いました

1990年より続いた中学生への奨学金支援が、2015年度の卒業生を持って終わりを迎えました。7月に現地調査に行き、タイ王国のウドンタニ県・カラシン県全体における教育事情の調査を実施しています。1990年当初は8%ほどだった中学進学率が、今はほぼ100%、高校へも80%が進学できるようになりました。
またミャンマー地域での奨学金を、寮生対象の奨学金と合わせて、地域で学校に通う子どもたちの奨学金も開始しています。現地の状況に合わせて、子どもたちに合った奨学金へと成長する一年となりました。

● 多くの方々と繋がるプログラムを作ることができました

イベントボランティアの呼びかけや、ランチ会を兼ねた報告会の企画、また国際交流や国内事業等で会員の方以外にも多くの方々に参加・サポートしてもらい事業が行うことができました。

● 活動や成果の情報発信を行いました

多くの事業を知ってもらうためにSNS(主にフェイスブック)を使って、定期的に情報発信を行いました。フェイスブックも1000「いいね」を超えることができました。
また、クリック募金・gooddoを使って地球市民の会の応援者等の獲得へと繋げました。

● 九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2015佐賀大会を実施しました

佐賀のグリーン・ツーリズム推進および実践者同士の交流を深めることを目的に、毎年各県持ち回りで大会を実施しています。2015年度は佐賀県で地球市民の会が事務局となり12月2日、3日に実施しました。
佐賀県内のグリーン・ツーリズム協議会を置く佐賀市、唐津・玄海、伊万里市、鹿島市、吉野ヶ里町の5の地区と連携して2年前から話し合いを進めてきました。当日は、九州圏内からグリーン・ツーリズム実践者が400名以上の参加がありました。全2日間のプログラムとしては、1日目は各5地区に参加者が分かれて体験事業や農家民泊などを行いました。2日目は本会場である唐津市に移動し、シンポジウムや食の大交流会が行われました。参加者の満足度も高く、実践者同士の交流を深めることができました。

平成27年度 活動方針の振り返り

活動方針

もっと“ツナガル”地球市民の会へ

昨年度は会員様はじめ多くの方々にイベントや事業にご参加をいただき、支えていただいた1年でした。また、事業を通して新たな出逢いがあり、地球市民の輪が広がる活動を行うことができました。

● 重点活動

①活動の現場、フィールドと“ツナガル”

海外事業の報告会やスタディーツアー、国内の中山間地の活動に参加できる機会を増やし、計25回実施しました。

②会員のみなさんと“ツナガル”

イベントや事業への参加を会報や直接連絡などをして、呼びかけを行いました。また、ボランティアカフェを行い、会員の方同士の交流も深めることができました。

③新たな出逢いと“ツナガル”

昨年度は、県内外のイベントへの参加やイベントの自主開催、講演会などを行い、新たに当会を知ったり、サポートしたりしていただいた方が2,593名増えました。

● 事業別重点活動

国内事業：

1) 中山間地域づくり事業の推進

佐賀市富士町古湯、麻那古集落では空き家再生事業を実施しました。また、吉野ヶ里町では30本のオリーブの植樹を行いました。

海外事業：

1) ミャンマー事業ステージ2の展開(これまでのノウハウを活用したコミュニティ/ソーシャル・ビジネス化)

循環型農業実践農家の組織化が進み、農産物の協同集荷、販売(Greenhill)や、植林と連動した搾油事業などが立ち上がり、新たな事業展開ができてはじめています。

2) ミャンマーでのシャン州を中心とした地域づくり事業

TPAミャンマー主導の地域づくりを目標に、現地スタッフの育成が進み、現地スタッフ中心の事業運営も始めました。今後のTPAミャンマーの設立へ向けてゆっくりではありますが、前進しています。

3) タイ事業

高校・大学生への奨学金支援と中学生支援の総括

奨学金事業全体の制度の見直しを実施しました。中学生支援の統括を今後まとめていきます。

4) スリランカ事業

奨学金の継続支援と交流の促進

5年ぶりのスリランカ訪問を実施し、相互間交流を深め、奨学金事業のモニタリングを実施出来ました。

5) 韓国・中国事業

日中韓の国際交流事業(TOMODACHI100プロジェクト)

過去最多の中国・韓国の大学生およびサポーターが参加してくれました。また、事業後も交流が継続的に続いています。

平成27年度事業報告概要

事業	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲、人数	支出額
国内事業	夏休みキャンプ(ふるさとステイ、金立キャンプ)	7月～8月	佐賀市富士町関屋、三瀬中鶴金立キャンプ場	2人	佐賀県、福岡県小学生 139名 富士町/三瀬協力者 15名	1,263
	雪国ふるさとステイ	12月	福井県	2	佐賀県、福岡県小学生 6名	692
	中山間地域づくり事業	通年	佐賀市富士町吉野ヶ里町	2人	佐賀市富士町、吉野ヶ里町、協力者延べ420名	1,521
	日中韓大学生交流事業 TOMODACHI100	1月	佐賀県内各所	2人	中国人大学生28名、中国人引率者5名、韓国人大学生10名、協力者112名(日本人学生も含む)	2,275
	委託事業	通年	佐賀市内	2人	参加者 延べ150名	280
	その他(絆伝心、物販、業務委託、講師派遣事業)	通年	佐賀県内各所	2人	関係者 500名 聴衆者 2500名	1,628
	小計					7,662
奨学金事業	奨学金支給	通年	タイ : クーキャオ校・ノンハーン校・大学生 スリランカ: サンガミッタ女子校 ミャンマー: タンボジ青少年育成センター・ シャン州ホッポン・シーサイン・ピンラウンタ ウンシップ	5人	タイ受給生 38名 スリランカ受給生 30名 ミャンマー受給生 50名	2,524
	スタディツアー	3月	スリランカ	2人	日本人参加者1名・現地交流生徒・ 保護者・教師167名	343
	その他(チャリティーショップ・さとおや交流会・世界とツナガル! 国際協力セミナー)	通年	佐賀市内	5人	日本人参加者延べ50名	2
	小計					2,870
ミャンマー事業	循環型共生社会の自立発展事業 (JICA草の根パートナー型)	通年	タウンジーT/S、チャウタロンサブT/S、セレー、ナウンカ、ハムシー地区	6人	左記3地区に住む農民約25,000名	1,509
	農業支援	通年	タウンジーT/S、チャウタロンサブT/S、セレー、ナウンカ、ハムシー地区	6人	左記3地区に住む農民約25,000名	(198)
	チャウタロン給水事業 (外務省NGO連携無償資金事業)	～7月	チャウタロンサブT/S、1町3村落郡	6人	対象地域の住民約12,500名	62,455
	シーサイン農業環境及び水環境整備事業 (外務省NGO連携無償資金事業)	通年	チャウタロンサブT/S、1町3村落郡	6人	対象地域の住民約15,000名	
	レーエインコン/シーサイン緑化事業 (みどりの募金)	通年	ニャウンシュエT/S、タンボジ村落群、レーエインゴン村・シーサインT/S、	6人	対象地域の住民約15,200名	2,165
	環境教育事業 (エコポイント)	通年	ニャウンシュエT/S、タンボジ村	6人	タンボジ寮生16名	48
	モリンガを活用した循環型農村づくり事業 (地球環境基金)	通年	シーサインT/S、ロイプツ村落郡	6人	対象地域の住民約800名	715
	ナンコッ幼稚園建設	10月～	ホッポンT/S、ナンコッ村	6人	保育園に通う70名及び保護者	4,703
	カウントー小学校建設	10月～	ピンラウンT/S、カウントー村	6人	学校に通う60名及び保護者	
	ロンター小学校建設	1月～	ホッポンT/S、ロンター村	6人	学校に通う30名及び保護者	
	タンボジ女性の自立支援事業 (ゆうちょ)	通年	ニャウンシュエT/S、タンボジ村落群	7名	タンボジ村の女性組合10名	116
	スタディツアー	通年	シャン州南部	5人	各ツアー参加者合計8名	646
	物販	通年	佐賀市、能古島	6人	参加者のべ1000名	107
	その他(NGOインターンプログラム、緊急支援等)	通年	シャン州、チン州	6人	約1,275名	1,143
	小計					73,413

平成27年度 国内事業報告

年間事業

2015年4月1日～2016年3月31日

5月9日～10日：国際交流フェスティバルin能古島@能古島

5月23日：第14回通常総会@佐賀商エビル

10月3日：さがんなか祭り・さが国際フェスタ@佐賀商エビル

12月2日～3日：九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2015IN佐賀

12月22日：ランチでツナガル！国際協力セミナー@佐賀商エビル

1月27日～2月3日：TOMODACHI100（日中韓大学生交流事業）

TOMODACHI100（日中韓大学生交流事業）

3年目になるTOMODACHI100はこれまでよりも最多の参加者と協力者によって実施致しました。中国・韓国の参加者は中国より28名、引率の先生が5名、韓国より10名の参加がありました。また、佐賀大学や西九州大学等からサポータースタッフとして41名の参加でした。活動内容は、ホームステイや企業訪問、日本文化体験などを行いました。今回も帰国の時には涙のお別れとなりました。参加した学生の満足度は非常に高いものでした。それは、ホストファミリーの方々や日本人学生のおもてなしのお陰であったかと思います。帰国後も、双方での連絡を取り合い交流が継続しているとのことです。これからの日中韓の友好の形づくる交流事業となりました。



北欧の地域づくりや教育について（総会イベント）



日本の文化を学びました（TOMODACHI100）

九州グリーン・ツーリズムシンポジウム2015IN佐賀大会

佐賀のグリーン・ツーリズム推進のため、当会が事務局となり、佐賀県と連携してグリーン・ツーリズムの佐賀大会を実施しました。佐賀県内のグリーン・ツーリズムの協議会がある佐賀市、唐津・玄海、伊万里市、鹿島市、吉野ヶ里町の5の地区の方々と一緒に話し合いを進めてきました。参加者は主に九州圏内からグリーン・ツーリズム実践者が参加しての研修になります。今回は400名以上の方が佐賀を訪れました。2日間に渡ってイベントはありましたが、1日目は各5地区で受け入れての体験事業や農家民泊などを行いました。2日目は会場を唐津に移し、シンポジウムや食の大交流会が行われました。参加者からのアンケートでは、「地元の食材を使った料理に大変満足した。」「スタッフのおもてなしに感動した」などの感想をいただくことができました。佐賀県内でも初めて5地区が連携しての活動になり、横のネットワークの繋がりのできた事業となりました。



400名以上の参加でした
（グリーン・ツーリズム）

ランチでツナガル！国際協力セミナーを実施しました

ミャンマーに駐在している柴田理事の一時帰国に合わせて開催し、参加者と一緒にミャンマー料理を作り、その後は柴田理事の講演を行いました。参加者は会員の方以外も多く、イベント後は会員になっていただくなど、当会を認知・理解していただく機会になりました。



佐賀県唐津市のおもてなし
（グリーン・ツーリズム）

2016年の事業も引き続きご支援お願いします

毎年多くの方々のご協力をいただき活動を行っております。今年度も会員の皆さまやサポートして下さる方々が参加しやすい活動を行っていきます。



ミャンマー料理を作りました
（国際協力セミナー）

平成27年度 佐賀市中山間地域づくり事業報告

活動報告

2015年度の活動は、昨年度よりも行政や地域の方々と連携しての事業実施となりました。また、新たな集落での活動もでき、活動地域も増やすことができました。

オリーブの森事業

2014年から実施しているオリーブの森事業は2015年度も参加者の方々と一緒に管理作業から植樹まで行いました。

毎回30名～40名程度の方々に参加をしてもらい、地域の方や地元の役場との方々と協働で活動を実施しています。

2016年3月6日に行われました、植樹祭の時には吉野ヶ里町長、隣町のみやき町長も応援に来ていただき記念植樹を行っていただきました。

何より、2015年度は担い手として地域の方が中心となって「吉野ヶ里オリーブ会」を結成し、今後の継続的な仕組みを構築することができました。

佐賀市の中山間地域の空き家対策事業

佐賀市富士町を中心に空き家対策事業として、移住・定住のサポートを行いました。佐賀市富士町も高齢化の影響で空き家、耕作放棄地が増え、子供が減り、学校が統合、集落の祭りなども段々少なくなっている状況にあります。

そこで、地元の自治会長や役場の方々、地域の方々とチームを組み、地域の受け入れ体制や今後の地域の未来の姿を考えるワークショップやイベント等を行ってきました。1年間で佐賀市富士町古湯集落で10家族の移住者が移り住んでこられました。また、新たな地域として佐賀市富士町麻那古集落では、空き家を活用した交流の拠点づくりを佐賀大学生と一緒に行いました。佐賀大学生と一緒に掃除して、体験イベントを3回実施しました。体験イベントでは、地域のものを使った料理作りやフットパス(町歩き)を行い、地域のへのファンづくりを行いました。

雪国ふるさとステイ NEW

冬のキャンプ事業として、佐賀・福岡から募集した小学生・中学生と福井県で冬山キャンプを行いました。日程の問題もあり、少人数の参加になりましたが九州の山では体験できない本格的な冬の山を体験することができました。少人数の実施で一時は中止の方向もありましたが、2015年度実施したことで来年度に続く事業となりました。

夏休み子どもふるさとステイ2015

4年目になる夏休みの子どものキャンプは佐賀県内、福岡市内から119名の参加がありました。毎年参加してくれている小学生もあり、地元の方とも顔なじみになり、キャンプ以外でも富士町に遊びに来るようになったと言っていました。

また、毎年キャンプを楽しみにしている地元の方も多くなり、以前よりも地域の方の参画が増えました。他の集落からも見に来る人もおり、少しずつですが周りへの波及効果が生まれてきました。



植樹の様子(吉野ヶ里オリーブ)



空き家の改装はボランティアさんの手で
(空き家対策事業)



クヌギのオーナー制度のイベント
(佐賀市富士町麻那古イベント)



雪国を楽しみました(雪国ふるさとステイ)



みんなで餃子づくり(夏休みふるさとステイ)

平成27年度 奨学金事業報告

平成27年(2015年)度 奨学金支給状況

奨学金名	支給先	支給学生数	これまでの総数
タイ・地球市民奨学金 (中～高校生)	ウドンタニ県 クーキャオウィッタヤ校	21名	1990年～2015年で 3,473名
タイ・新地球市民奨学金 (高校生)	ウドンタニ県 ノンハーン校	15名	2013年～2015年で 25名
タイ・新地球市民奨学金 (大学生)	ノンハーン校卒業生	2名	2014年～で
ミャンマー・タンボジ奨学金	タンボジ青少年育成センター	14名	2014年～で 20名
ミャンマー・地球市民奨学金	シャン州ホップン・ピンラウン・ シーサインタウンシップ	36名	2015年より開始
スリランカ・シショダヤ奨学金	ゴール市 サンガミッタ女子校	30名	1998年～2015年で 125名
総計		118名	1990年～2015年で 3,659名

地球市民の会の奨学金事業では、284口・190名のさとおやさんにご支援を頂き、118名の子どもたちへ支援を届けることが出来ました。今年も真心溢れる子どもたちへのご支援、ありがとうございました。

各地域にて、子どもたちにとって一番いい形での奨学金が届けられるように、新規地域での支援開始や中学生から高校生へ支援の移行をしています。

タイ～中学生への奨学金支援が終了を迎えました！

この春、当会が支援する最後の中学生が無事に卒業を迎えました。1990年、タイで初めての奨学金支援をクーキャオ校で始めた当初は、中学進学率が8%でした。「最低限の教育を子どもたちが受けられるように」と、奨学金支援を行ってきた26年の間に、奨学金を受けて母校に戻った教師や、日本企業に就職した方など、多くの人材が巣立っています。

今度は彼らが「地球市民」として、それぞれの地域、社会で活躍していきますので、あたたかく見守りいただけますと幸いです。



クーキャオ校の卒業生



スリランカ・サンガミッタ女子校のシショダヤ奨学生

スリランカ～奨学金受給生が増えています

2011年より、奨学金受給期間を2年から約4年(3年8か月)に延長しました。今回、4年間受給した奨学生が初めての卒業を迎え、最難関である医学部に合格する優秀な人材も輩出されています。

NEW

ミャンマー～地域での奨学金を拡充して教育機会を創出しています

シャン州の3つのタウンシップ、ホップン・シーサイン・ピンラウンにて高校生への奨学金を開始しました。各地域12名ずつ選抜された子どもたちが奨学金を受給し、高校に通って学んでいます。

実施地は、軍事政権時代に外国人が立ち入り禁止だった地域です。内戦が最近まで起こっていた、山岳地域で農作物が豊富には出来ない等、地域の課題がある中で、「勉強したい」と願う子どもたちに届けています。



ミャンマー・地球市民奨学金初めての授与式

卒業生の活躍

スリランカ・シショダヤ奨学金/アキラさん2010-2012年奨学生

私は現在、ケラニア大学で日本語専攻をして勉強をしています。日本のさとおやさんにはご支援をいただき、ありがとうございました。さとおやさんとは、日本語で手紙を書いて交流が出来、卒業しても手紙のやりとりをしています。将来は、日本語を活かして働き、日本とスリランカを結ぶ仕事をしたいです。

奨学金受給生の声

ミャンマー・タンボジ奨学金/クン・リン・シェイン・テツさん2014-2015年奨学生

僕はこのセンターで生活している9年生です。このセンターに通うことができてうれしいです。日本のお父さんお母さんが支援してくださり、うれしいです。

お父さんお母さんが健康で豊かでありますようにいつもお祈りしています。いろんな民族の仲間と、タンボジ寮で一緒にすごせることはうれしいです。

10年生試験を良い成績で合格できるよう、勉強を頑張っています。



左: アキラさん



クン・リン・シェイン・テツさん、タンボジ寮にて

スリランカ事業地訪問

3月5～11日、さとおや会員1名と共に地球市民の会の5年振りのスリランカを訪問しました。現地ではサンガミッタ女子校訪問や奨学生の家庭訪問、インタビューや学生たちとの文化交流を実施しました。

今回の訪問では、奨学生の保護者や卒業後の様子をインタビューすることが出来、奨学金の「精神面での支えになる」という大きな成果を確認すると共に、保護者や卒業生の協力を得ることで、スリランカでの友好の輪が更に広がる訪問となりました。

「今後も、奨学金・交流を通じて地球市民の輪を広げていこう」と確認し合いました。

(助成: 西日本国際財団)



スリランカの学生たちと折り紙体験

子どもたちへ笑顔を届ける

チャリティショップ ばーん・たわん

アジアの子どもたちの為のチャリティショップばーん・たわん、2015年度も多くの方のご寄付と支援に支えられ、運営できました。月1～2回ボランティアグループの皆さんにお越しいただき、市民の力で運営が出来、活動継続が出来ています。

《平成27年(2015年)4月～

平成28年(2016年)3月》

売上点数: 222点

寄付者数: 21名+1企業

ボランティア参加者: 25名

売上: 137,372円

《ご協力いただいている企業様》

・(有)ニューポーン新古賀 さま

・小松商店金属部 さま

・損害保険ジャパン日本興亜(株)

佐賀コールセンター室 さま

・楽天オークション株式会社 さま



ニューポーン佐賀店さんに並ぶ寄付商品

さとおや交流会・ボランティアデー

年間を通じてさとおやさんをはじめとするボランティアの参加をいただきました。

8月にはさとおや交流会として、現地訪問報告や里子へのメッセージ作成を皆で行いました。人それぞれの出来る方法で、当会の事業を支えていただいています。



さとおや交流会

2011年より、奨学金事業は大きく変わってきています。タイ・スリランカからミャンマーへ輪が広がり、中学支援から高校支援へと、「今、子どもたちにどんな支援が必要なのか」を追求し、形を変えています。しかし、根本の「子どもたちのために」「地球市民として出来ることを」という思いは変わりません。

2016年は、スリランカの招へい事業もあります。奨学金を通じて、「地球市民」としてのお互いを思いやる心を日本とタイ・ミャンマー・スリランカ双方で、育てていきたいと思っています。

● 農業畜産業支援

310人が農業研修を受講し、30世帯が平均約3万円収入向上しました

循環型共生社会の自立発展(JICA草の根技術協力パートナー型)事業

JICA草の根技術協力パートナー型によって2012年から3ヶ年取り組んだ農民たちの共同集荷・出荷システムの構築事業。3つのエリアで生産者組合ができ、農産物をヤンゴンに出荷・アンテナショップで販売しています。現在出荷農家は30世帯に増え、50万円の売上げがあがるようになりました。(助成:独立行政法人国際協力機構)

循環型農業研修

ナウンカセンターで循環型農業7日間研修を9回実施し、117名が参加しました。これまで研修実施87回、参加累計人数は1,287名にのぼります。また、JAグループ佐賀様や外務省の支援で1日～2日研修を行い、参加人数は173名でした。JA佐賀様からは、農業畜産業の振興のための支援もいただき、3村の給水事業を実施しました。

ナウンカ長期研修

今年度も農村青年10名を対象として、循環型農畜産業の研修を主体に、食品加工、キノコ栽培、機械整備、洋裁、会計などを学ぶ3か月間の研修を行いました。今回はカチン州という遠方からの参加者も2名いました。研修生の何人かは、研修修了後も1日研修の講師助手として活躍してくれています。



ヤンゴンのアンテナショップ



村での循環型農業研修

● 開発支援

11,356人が安全で十分な飲料水にアクセスできるようになり、1,110人が衛生知識を身につけました

シャン州山岳少数民族の飲料水・衛生環境の改善事業

飲料水の確保が困難なパオ族の山岳地域にて、2,113世帯に対し衛生的な水を配水するためのプロジェクトを昨年10月より開始し、7月に完成しました。約11,356人が衛生的な水にアクセスできるようになりました。水が各地域に配水されたことで、往復1～2時間の水汲み労働の負担が軽減され、乾季の水不足からおこる、下痢や皮膚病等も改善する見込みです。給水施設の整備とともに、基礎的な衛生知識の研修を行い今後、地域の衛生環境の改善につながるよう見守っていきます。

(外務省日本NGO連携無償資金協力)

シャン州山岳少数民族地域における農業環境及び水環境整備による

生活改善事業

2015年度より新たに活動を始めたシーサイン・ピンラウンという2地域において3ヶ年かけて行う事業です。1.2年目は農シーサインにおいて飲料水の配水と業灌漑整備、3年目はピンラウンという険しい山岳地域で飲料水の配水を行い水を中心とした生活環境の改善を目指します。また3年通じて農業の生産性向上を目指して循環型農業研修を行うことで、あわせて農村地域の人々の生活が良くなることを目標にしています。

(外務省日本NGO連携無償資金協力)

● 環境保全

17,201本の植林を行い、311人が環境教育研修を受講しました

山岳少数民族地域(レーエインゴン村)における学校林造成及び環境教育事業

環境破壊が進むインレー湖や周辺の緑化、環境保全のためにインレー湖水源地の村において植林と環境教育を行いました。村の共同地に村のみんなで7098本の植林を行いました。また、こどもたちが理解しやすいよう環境教育DVDを作成、のべ150人の親子が学びました。

(国土緑化推進機構「緑の募金」)



循環型農業研修の修了生



保健衛生研修の様子



シーサイン水タンク建設

モリンガを活用した緑化と循環型農村作り

NEW

新事業地における3ヶ年の事業です。2015年度はシーサインにおいて事業を開始。生育が早く、CO2吸収率が高い上に、葉や鞘が食用可能で栄養価が高いことからミラクルツリーよばれる「モリンガ」という木を活用した事業です。①モリンガ植林②伐採を減らし植林を促す環境教育③緑化委員会の組織と、モリンガオイル搾油による緑化基金の創出④循環型農業研修とモリンガを活用した堆肥実験の4つの活動を行いました。2月にはモリンガの加工品を学びに数名でフィリピンにも行きました。目標は、モリンガによる緑化・CO2削減とあわせ、加工品による収入向上です。

(環境再生保全機構「地球環境基金」)



植林用の苗木運搬

NEW

水源涵養コミュニティ林造成及び水源涵養啓発事業

シーサインにて2015.7～2016.6の事業期間で実施しています。昔から地域で使っている水源周辺で木々が伐採され、水量の減少が問題になっていました。そこで、地域の要望もあり水源涵養のための植林を実施しました。2月には日本の専門家を派遣し、環境教育を行いました。模型をつかい、分かりやすく森の役割を講義してもらい大好評でした。

(国土緑化推進機構「緑の募金」)



スタッフ対象に森の研修

● 教育支援・人材育成

1校の小学校建設が完了し、60人のこどもが安全な校舎で教育を受けられるようになりました。また、小学校1校と幼稚園1校を建設も完了間近です。

学校建設・幼稚園建設

学校2校、幼稚園1舎の建設事業を実施しました。

NEW

＜カウントー小学校＞少数民族リス族の村で、老朽化した校舎が危険だったため、新校舎を建設しました。(大阪コミュニティ財団、鶴田雅敏氏、森誠氏、鍋島洋一氏)
＜ロンター小学校＞パオ族の村。老朽化した校舎を取り壊し、新校舎を現在建設中です。(坂井邦夫氏)

＜ナンコツ幼稚園＞もともと村にあった幼稚園は狭く、建物も老朽化して危険だったため、新園舎を建設しています。(三井住友銀行ボランティア基金)



タンボジ女性の食品加工

農村女性の生計向上のための食品加工・手工芸技術指導

2013年度から開始した農村女性のエンパワーメント事業です。農村で現金収入を得る機会の少ない女性たちが職業訓練を通じて食品加工や手工芸の技術を身につけ、収入を手にかけています。昨年度は食品加工、石鹸づくり、蜜蝋キャンドルづくりなどの研修を実施しました。また、2名がヤンゴンに先進地視察に出かけました。

(助成・ゆうちょ財団)



完成したカウントー小学校

● 交流

81人がミャンマーの事業地を訪れ、国際理解を深めました。

スタディツアー・視察ツアー

鹿児島大学、佐賀大学、そして東洋大学も加わり3校の大学生の研修を受入れました。3月には当会のツアーも実施。ホームビジット等で交流を深めたほか、国際協力の現場をみてもらう機会となりました。また、ミャンマー日本人学校の親子を対象とした農業の体験ツアーも始まり、ミャンマーのサイトが教育の場となってきています。



2016年3月TPAツアー

● プロジェクトマネージャー・柴田より

2015年度の大きな事業としては、「水」をキーワードとしてインフラ整備を実施するとともに研修なども実施し、大きく生活環境や農業環境の改善を目指しました。農業分野では今まで地道に進めてきた活動を継続しての研修の実施、昨年度に引き続き付加価値をつけた販路の開拓・拡大にも力を入れました。また、目標にしてきた「活動と組織の現地化」を念頭に置き、ミャンマー人スタッフへの仕事の移行を進めていきました。スタッフが順調に育ってきており、今後できることはミャンマー人スタッフにどんどん任せていきたいと思っています。農業従事者が6割を超えるミャンマー。民主化後、地方にも大きな時代の流れが波及してきていますが、農村生活の向上は、ミャンマーの将来を考える上でとても重要なポイントだと思っています。少しでも貢献できるよう、皆様のご協力の下、今後もスタッフ一同力を合わせて頑張っていきたいと思っています。

地球市民の会 32 年の歴史

- 1973 年 「佐賀フランス研究会」設立(地球市民の会の前身)
- 1980 年 「古賀英語道場・佐賀日仏文化会館」設立
- 1983年 「地球市民の会」設立
- 1986年 第1回小さな地球計画開始
- 1987年 日タイ協力事業開始
- 1988年 日韓交流プログラム「かちがらす計画」開始
- 1990 年 地球市民奨学金開始
- 1992 年 人間の持つべき文明「テラアピール」発表
- 1993年 地球共感シンポジウム、アジア太平洋協力会議 実施
- 1995 年 地球市民運動全国会議実施、スリランカ協力事業開始
- 2002 年 NPO 法人格取得
- 2003年 ミャンマープロジェクト開始
- 2008年 創始者 古賀武夫 逝去
- 2009 年 人間の持つべき文明 2009「テラアピール 2009」提唱
- 2009年 佐賀市中山間地元気再生事業開始
- 2010年 国税庁より認定 NPO として認定
- 2011年 ASC2008 認証
- 2011 年 東日本大震災復興支援事業開始
- 2013 年 創立 30 周年記念・北澤氏講演会
- 2015 年 ASC2012 認証
- 2016 年 平成 28 年熊本地震支援事業開始



タイ・クークャオ卒業式

地球市民の会 主な褒章

- 1988 年 サントリー地域文化賞
- 1989 年 国際交流基金地域交流振興賞
- 1994 年 佐賀県県政功労者知事賞
- 1996 年 自治大臣表彰
- 1996 年 厚生大臣感謝状
- 2000年 外務大臣表彰
- 2003年 にしぎんアジア貢献賞
- 2006年 地球倫理推進賞
- 2006 年 文部科学大臣奨励賞



TOMODACHI100 ウェルカムパーティー

地球市民の会組織図 2016 年度

